

ドングリの実りは昨年より多いが、やや凶作

当センターでは、秋のツキノワグマ(以下、クマ)の出没を予測する基礎データを得るため、毎年、クマ生息地域におけるブナ科種子の結実状況(ドングリの豊凶)をモニタリングしています。

本年も、8 月後半から 9 月前半にかけて、府内の森林計 39 箇所を、目視により調査した結果、ブナ科種子全体として、「大凶作の昨年よりは結実の多い、並作に近い凶作」と判定しました。従って、今後もクマの出没が懸念される状況であり、昨年同様に注意が必要です。

当センターでは、エサ資源としてのブナ科種子の豊凶調査を継続し、クマの出没状況との因果関係を明らかにしていく予定です。

ドングリの豊凶調査の結果

樹 種	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
ブナ	並	凶	並	凶	並	凶	並	凶	並	凶	凶	凶	豊	凶	凶	凶	凶
イヌブナ	凶	凶	豊	凶	凶	凶	凶	並	凶	凶	凶	凶	凶	凶	凶	凶	凶
ミズナラ	並	凶	凶	凶	凶	凶	並	凶	並	並	凶	並	並	並	並	凶	並
コナラ	並	凶	凶	並	凶	凶	並	並	並	並	凶	凶	並	凶	並	凶	並
府全体	並	凶	並	凶	凶	凶	並	並	並	並	凶	凶	並	凶	並	凶	凶
豊凶レベル	2.0	0.6	1.6	1.3	1.2	1.1	1.9	1.5	2.3	1.6	0.9	0.9	1.8	1.2	1.5	0.5	1.4

大量
出
没
年

大量
出
没
年

ブナ及びイヌブナ：昨年以上の、結実が見られない凶作
ミ ズ ナ ラ：昨年の凶作とは異なり、平均的な並作
コ ナ ラ：昨年の凶作とは異なり、凶作に近い並作
総 合 評 価：大凶作の昨年よりは結実の多い、並作に近い凶作

注:1. 豊凶レベル:調査木をレベル0(堅果がない)～レベル5(全体にたくさんついている)で数値化したものを樹種毎に平均化し、さらに 4 樹種を加重平均したもの

2. 判定基準:樹種毎に凶作(凶)<1.5≦並作(並)<3.5≦豊作(豊)で判定

農 林 セ ン タ ー (森 林 技 術 セ ン タ ー)

漆の絵付け体験を開催

緑化センターでは、地域特産である丹波漆や当センターの取り組みに対する府民の理解を促進するため、9月20日(土)に、「NPO 法人丹波漆」と「やくの木と漆の館」の協力を得て、漆の絵付け体験を開催したところ、親子連れなど21名が参加しました。

当日は、「NPO 法人丹波漆」の小野田副理事長から、丹波漆の歴史や魅力、生産拡大の取り組みについての紹介がありました。その後参加者は、漆の絵付け体験で丸盆やマグカップ等に思い思いに色鮮やかな漆を塗り重ねて作品を仕上げました。

参加者からは、「丹波漆を身近に感じることができた。」「お気に入りのデザインのカップができた。」などの感想が聞かれ、丹波漆への理解を深める有意義な体験会となりました。

当センターでは、10月18日に「花粉の少ないスギと丹波くり体験」の開催を予定しており、今後も、取組の発信と歴史ある地域の特産物の振興を進めます。



小野田副理事長の講演



型紙の貼り付け



漆の色付け



完成品

農林センター(森林技術センター)

高校生が果樹栽培の実習

9 月 1 日、当センターにて、府立清新高等学校で果樹栽培を学ぶ 3 年生 8 名が、ブドウの収穫および糖度・酸度の測定実習を行いました。

生徒たちは、今年 6 月の実習で粒の数を調整したブドウの房を収穫し、房の形状や粒の付き方を観察しました。また、粒を多く残した房と調整した房を比較して粒の大きさや糖度・酸度の違いを確認し、適切な房づくりにより大粒で甘い高品質のブドウになることを学びました。

本実習は、京都府における果樹生産の担い手育成の一環として実施しており、今後も同校と連携し、継続的に取り組んでいく予定です。



収穫時の注意点について説明する様子

試験研究課題: グリーンな力でトリプル効果! 緑肥生態系を活用した豆類
保護管理技術の確立(令和 7 年度産学公京もの新ブランド
価値創出事業)

豆類ほ場における外来雑草の発生実態調査

黒大豆(エダマメ含む)及び小豆では、連作栽培、栽培時期の高温化などにより、土壌病害、チョウ目害虫及び外来雑草による被害が増加しており、対策が求められています。これまでに、当センターでは、緑肥作物へアリーベッチを黒大豆の定植前にすき込むことにより、チョウ目害虫による被害の軽減や、外来雑草ヒロハフウリンホオズキの抑制効果を確認しました。そこで、本研究では、緑肥作物を用いて病害、虫害及び雑草害を同時に抑制する管理技術の確立を目指しています。

9 月に、当センターでは、農林センター栽培技術開発部と共同で、府内の黒大豆及び小豆ほ場において外来雑草の発生実態を調査しました。今後、緑肥作物利用に際しての雑草の発生リスクについて評価を行い、結果を報告する予定です。



小豆ほ場における雑草調査の様子



外来雑草ヒロハフウリンホオズキ

京都ぽーくの肉質と未利用資源に関する試験を実施中

当センターでは京都府産ブランド豚肉「京都ぽーく」の美味しさとブランド価値の向上を目的として、賞味期限切れのパンなどの未利用資源を配合した飼料や季節が肉質に及ぼす影響に関するFF試験^{※1}を実施しています。

本試験では、これら飼料に含まれる脂肪酸を分析し、農家ごとの飼料組成が豚肉の脂肪の質に与える影響や、豚肉の脂肪酸が季節に影響を受けているかを調査しています。

これまでに、飼料に含まれる多価不飽和脂肪酸(PUFA)^{※2}量と豚肉に含まれるPUFAとの間に関係があることが分かり、協力農家に報告しました。今後は肉質の分析を継続し、飼料や季節などの要因が豚肉の品質に及ぼす影響について、さらに詳細な調査を進める予定です。

※1 FF 研究:Foundation for Future Innovative Investigation 研究
未来への革新的研究の基盤となる研究

※2 多価不飽和脂肪酸(PUFA):二重結合を二つ以上もつ脂肪酸。
豚肉では含有量が多いと酸化臭や軟脂の原因となる。



協力農家へ飼料分析の結果を報告

トリガイの高温負荷試験

近年、トリガイの養殖漁場では一時的に水温が30℃に達し、養殖トリガイへの影響が懸念されています。当センターでは、高水温耐性を持つトリガイの系統の選抜育種を進めていますが、どの程度の耐性を獲得しているかは不明でした。

そこで、現在の系統への高温負荷試験を実施し、本種の耐水温限界とされる29℃前後での生残率を調べました。なお、本試験は、水産研究・教育機構の協力を得て実施しました。その結果、30℃までの水温であれば、餌が十分に供給されることで生残の可能性があることが示唆されました。

今後は、耐性の指標となる体内物質（グリコーゲンなど）の変化も含め、より詳細な研究を進めていく予定です。



トリガイ高温負荷試験の様子(左:飼育装置全景、右:高温負荷で死亡した試験貝)

農業技術交流会を開催しました

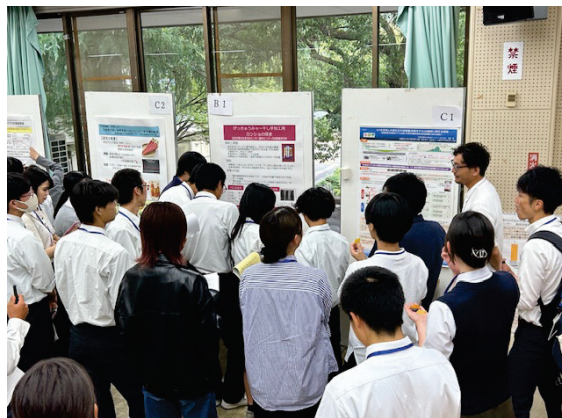
当センターでは、京都府立大学、京都府立高校とともに、農林水産業に係る互いの研究に関する意見交換や関係の構築等を目的とした交流会を開催しています。今年度は京都府立大学下鴨キャンパスにおいて実施したところ、各機関から合計で140名以上が参加しました。

会場では、ポスターを用いて59件の研究成果についての紹介が行われ、活発な議論が交わされました。参加者からは「センター、大学の研究内容を知り刺激を受けた」、「新しい視点から意見を貰い有意義だった」等の声が聞かれました。

当センターでは、今後も府内の教育機関との連携強化に向けた研究交流に努めます。



140名以上が参加して盛況に開催



研究成果について活発な議論が行われた